

時間割

※休憩時間は10分、昼休みは1時間(12:10～13:10)です。

【選択領域講習】講習名:⑧家庭科の授業づくりと教材化の視点(Aクラス) (板橋キャンパス)

| 月日 | 時限 | 時限 | タイトル | 概要 | 担当者 | 講座形式 | 認定方法 | 持ち物・連絡事項 |
|-------------|----|-------------|---------------------------------|--|------|-------|------|--|
| 8/19 (月) | 1限 | 9:00～10:30 | 食品の安全① | 現代の我々を取り囲む食品事情をみると、非常に豊かで、溢れかえる状況にある。また、我々の食生活の中で食中毒を経験することは稀である。にも拘らず、国民(消費者)は食品に対する不安を拭いきれない。その原因は何なのか。食品の偽装問題などによる食品製造業者への不信任感から不安につながっている面が多いのではないか。今回、食品の安全と安心についてリスクという観点から考えてみたい。その中で、残留農薬、遺伝子組み換え食品、BSE、環境ホルモンといった問題について取り上げ、食品安全に関する正しい理解を深めたい。 | 佐藤吉朗 | 講義 | 筆記試験 | 特になし |
| | 2限 | 10:40～12:10 | 食品の安全② | | | | | |
| | 3限 | 13:10～14:40 | 家庭科の授業づくり トピック学習による教材開発と指導法ー | 現行教育課程における家庭科学習指導上の課題の一つとして、少ない授業時数の中で子どもがいかに意欲的に学習活動に取り組み、生活を総合的・科学的に認識することができるか、学習内容の量と学習活動の質が問われている。そこで、英国のトピック学習による家庭科の学びを通してその特徴を理解し、題材開発の実際を体験する。 | 青木幸子 | 講義・演習 | 開発教材 | 【持ち物】所属学校の解説書(小学校学習指導要領解説 家庭編あるいは中学校学習指導要領解説 技術・家庭編あるいは高等学校学習指導要領解説 家庭編)および現在使用している 家庭科教科書を持参ください。 |
| | 4限 | 14:50～16:20 | 家庭科の授業づくり トピック学習による教材開発と指導法ー | 開発された題材を基にグループワークと意見交換を行い、開発題材の実践化に向けて、学習内容の範囲とレベル、学習方法、評価など、子どもの学習意欲の喚起と実践的態度の育成など授業づくりの力量の向上を図るとともに、家庭科の独自性を生かしたカリキュラム編成への展望をもつ。 | | | | |
| 8/20 (火) | 1限 | 9:00～10:30 | 食品の官能評価の理論と実際 | 食物の状態は、理化学的に測定することは可能であるが、「おいしさ」として測ることは難しい。しかし、官能評価により、「おいしさ」を判定することはできる。これらを正しく識別・評価することは、おいしい食物を作る基や食育にもつながると考える。そこで、食品の官能評価の理論と実際について講述し、次の実習へ繋げていきたい。 | 土屋京子 | 講義 | 筆記試験 | 特になし |
| | 2限 | 10:40～12:10 | 食品の官能評価を取り入れた実習 | 「食品の官能評価の理論と実際」の講義を生かし、中学校教科書を中心とした、簡単な日常食1食分の献立を実習し、授業実践における食品の官能評価を取り入れた調理実習の指導方法について検討する。 | 加藤和子 | 演習 | 筆記試験 | 【持ち物】三角巾・エプロン・上履き(スリッパ可) 【連絡事項】官能評価の試料として、ご飯とだしがありますので、評価の終了後には、こんぶの混ぜご飯・汁物として試食をします。 |
| | 3限 | 13:10～14:40 | ゆかたの着装について① | 生活文化の継承などの視点から和服の基本的な着装を扱い、日本の伝統的な衣服である和服について触れる。また、衣生活にかかわる課題を解決する力を養い実践できるようにする。着装にはゆかたを用いて、着装のための用具の選び方、扱い方を紹介し、ゆかたの着方、半幅帯の結び方を演習する。また、サステイナブルな社会に向けて、手入れと収納の仕方を学び循環型社会を築くことを目標とする。 | 寺田恭子 | 講義・演習 | 筆記試験 | 【持ち物】 (女性) 女物ゆかた、きもの用下着(タンクトップやスパッツなどでも可能) |
| | 4限 | 14:50～16:20 | ゆかたの着装について② | | | | | (男性) 男物ゆかた(お持ちの方のみ) |

時間割

※休憩時間は10分、昼休みは1時間(12:10～13:10)です。

【選択領域講習】講習名:⑧家庭科の授業づくりと教材化の視点(Aクラス) (板橋キャンパス)

| 月日 | 時限 | 時限 | タイトル | 概要 | 担当者 | 講座形式 | 認定方法 | 持ち物・連絡事項 |
|-------------|----|-------------|------------------|--|-------|------|------|---|
| 8/21 (水) | 1限 | 9:00～10:30 | コミュニティを醸成するまちづくり | 現代の住生活にとって、一番の課題は何であるか？個々の住宅については、住宅設備が整い快適な環境がかなり整えられてきていると考えられる。一方、まちの環境として考えるとどうだろうか。マンションだけでなく戸建ての住宅地においても、隣人とのコミュニケーションは希薄となり、心の面において住み良いまちは減ってきているのではないだろうか。 ここでは、台東区谷中地域をひとつの事例として、まちに暮らすことの意義を学ぶとともに、豊かなコミュニティを実現するための住宅のつくり方等についても考える。 | 手嶋尚人 | 講義 | 筆記試験 | 可能であれば、事前に台東区谷中地域を見てくる。 持ち物は特になし |
| | 2限 | 10:40～12:10 | 家族と共生社会 | 現代日本は少子高齢化から人口減少社会となっており、社会統計等から家族や生活の変化の現状を客観的に捉え、今後の予想とこれからの生活課題を見いだす。また、現代は多様な生き方が認められつつあるが、誰もが孤立せずに安定した生活を営むには、どのような家庭や地域、共生社会をつくっていけばよいか、諸外国の例をとりあげながら、家族と共生社会を考える。 | 平野順子 | 講義 | 筆記試験 | 特になし |
| | 3限 | 13:10～14:40 | 乳児期の子どもと保育 | 乳児期の子どもの発達の特徴をふまえ、この時期に必要な保育者との情緒的なつながりを形成するための援助のあり方について学ぶ。また、乳児期の発育に適した遊具などを通し、健康で安全な保育環境のありかたについて考える。さらに、地域社会における子育て支援の現状と問題点に触れ、総合的に乳児をとりまく発育環境の重要性について考える。 | 堀 科 | 講義 | 筆記試験 | 特になし |
| | 4限 | 14:50～16:20 | 幼児期の子どもと保育 | 幼児期の遊びに焦点を当てながら、この時期の子ども発達の特徴をおさえると共に、遊びを通しての総合的な指導としての保育の実例をあげ、保育者の援助の内容とその方法について学ぶ。また、家庭科の授業としての実例(パワーポイントで実例をあげながら、幼児との連携・交流の実践指導のポイント、環境構成など)についても考える。 | 塚本美起子 | 講義 | 筆記試験 | 特になし |

※受講人数の関係で、2クラスで講習を行います。内容は同じです。クラス分けは7月上旬にホームページへお知らせいたします。

※認定方法は「筆記試験」「実技考査」「口頭試験」「その他(試験方法を明記)」のように履修認定は試験により行う。

※試験は本人確認ができる形態で行う。

*講習内容が変更になる場合もあります。ご了承ください。

【選択領域講習】講習名:⑧家庭科の授業づくりと教材化の視点(Bクラス) (板橋キャンパス)

| 月日 | 時限 | 時限 | タイトル | 概要 | 担当者 | 講座形式 | 認定方法 | 持ち物・連絡事項 |
|-------------|----|-------------|---------------------------------|---|------|-------|------|--|
| 8/19 (月) | 1限 | 9:00～10:30 | 食品の官能評価の理論と実際 | 食物の状態は、理化学的に測定することは可能であるが、「おいしさ」として測ることは難しい。しかし、官能評価により、「おいしさ」を判定することはできる。これらを正しく識別・評価することは、おいしい食物を作る基や食育にもつながると考える。そこで、食品の官能評価の理論と実際について講述し、次の実習へ繋げていきたい。 | 土屋京子 | 講義 | 筆記試験 | 特になし |
| | 2限 | 10:40～12:10 | 食品の官能評価を取り入れた実習 | 「食品の官能評価の理論と実際」の講義を生かし、中学校教科書を中心とした、簡単な日常食1食分の献立を実習し、授業実践における食品の官能評価を取り入れた調理実習の指導方法について検討する。 | 加藤和子 | 演習 | 筆記試験 | 【持ち物】三角巾・エプロン・上履き(スリッパ可) 【連絡事項】官能評価の試料として、ご飯とだしがありますので、評価の終了後には、こんぶの混ぜご飯・汁物として試食をします。 |
| | 3限 | 13:10～14:40 | ゆかたの着装について① | 生活文化の継承などの視点から和服の基本的な着装を扱い、日本の伝統的な衣服である和服について触れる。また、衣生活にかかわる課題を解決する力を養い実践できるようにする。着装にはゆかたを用いて、着装のための用具の選び方、扱い方を紹介し、ゆかたの着方、半幅帯の結び方を演習する。また、サステイナブルな社会に向けて、手入れと収納の仕方を学び循環型社会を築くことを目標とする。 | 寺田恭子 | 講義・演習 | 筆記試験 | 【持ち物】 (女性)女物ゆかた、きもの用下着(タンクトップやスパッツなどでも可能) |
| | 4限 | 14:50～16:20 | ゆかたの着装について② | | | | | (男性)男物ゆかた(お持ちの方のみ) |
| 8/20 (火) | 1限 | 9:00～10:30 | 食品の安全① | 現代の我々を取り囲む食品事情をみると、非常に豊かで、溢れかえる状況にある。また、我々の食生活の中で食中毒を経験することは稀である。にも拘らず、国民(消費者)は食品に対する不安を拭いきれない。その原因は何なのか。食品の偽装問題などによる食品製造業者への不信感から不安につながっている面が多いのではないか。今回、食品の安全と安心についてリスクという観点から考えてみたい。その中で、残留農薬、遺伝子組み換え食品、BSE、環境ホルモンといった問題について取り上げ、食品安全に関する正しい理解を深めたい。 | 佐藤吉朗 | 講義 | 筆記試験 | 特になし |
| | 2限 | 10:40～12:10 | 食品の安全② | | | | | |
| | 3限 | 13:10～14:40 | 家庭科の授業づくり トピック学習による教材開発と指導法ー | 現行教育課程における家庭科学習指導上の課題の一つとして、少ない授業時数の中で子どもがいかに意欲的に学習活動に取り組み、生活を総合的・科学的に認識することができるか、学習内容の量と学習活動の質が問われている。そこで、英国のトピック学習による家庭科の学びを通してその特徴を理解し、題材開発の実際を体験する。 | 青木幸子 | 講義・演習 | 開発教材 | 【持ち物】所属学校の解説書(小学校学習指導要領解説 家庭編あるいは中学校学習指導要領解説 技術・家庭編あるいは高等学校学習指導要領解説 家庭編)および現在使用している 家庭科教科書を持参ください。 |
| | 4限 | 14:50～16:20 | 家庭科の授業づくり トピック学習による教材開発と指導法ー | 開発された題材を基にグループワークと意見交換を行い、開発題材の実践化に向けて、学習内容の範囲とレベル、学習方法、評価など、子どもの学習意欲の喚起と実践的態度の育成など授業づくりの力量の向上を図るとともに、家庭科の独自性を生かしたカリキュラム編成への展望をもつ。 | | | | |

時間割

※休憩時間は10分、昼休みは1時間(12:10～13:10)です。

【選択領域講習】講習名:⑧家庭科の授業づくりと教材化の視点(Bクラス) (板橋キャンパス)

| 月日 | 時限 | 時限 | タイトル | 概要 | 担当者 | 講座形式 | 認定方法 | 持ち物・連絡事項 |
|-------------|----|-------------|------------------|--|-------|------|------|-------------------------------------|
| 8/21 (水) | 1限 | 9:00～10:30 | 乳児期の子どもと保育 | 乳児期の子どもの発達の特徴をふまえ、この時期に必要な保育者との情緒的なつながりを形成するための援助のあり方について学ぶ。また、乳児期の発育に適した遊具などを通し、健康で安全な保育環境のありかたについて考える。さらに、地域社会における子育て支援の現状と問題点に触れ、総合的に乳児をとりまく発育環境の重要性について考える。 | 堀 科 | 講義 | 筆記試験 | 特になし |
| | 2限 | 10:40～12:10 | 幼児期の子どもと保育 | 幼児期の遊びに焦点を当てながら、この時期の子ども発達の特徴をおさえると共に、遊びを通しての総合的な指導としての保育の実例をあげ、保育者の援助の内容とその方法について学ぶ。また、家庭科の授業としての実例(パワーポイントで実例をあげながら、幼児との連携・交流の実践指導のポイント、環境構成など)についても考える。 | 塚本美起子 | 講義 | 筆記試験 | 特になし |
| | 3限 | 13:10～14:40 | コミュニティを醸成するまちづくり | 現代の住生活にとって、一番の課題は何であるか？個々の住宅については、住宅設備が整い快適な環境がかなり整えられてきていると考えられる。一方、まちの環境として考えるとどうだろうか。マンションだけでなく戸建ての住宅地においても、隣人とのコミュニケーションは希薄となり、心の面において住み良いまちは減ってきているのではないだろうか。ここでは、台東区谷中地域をひとつの事例として、まちに暮らすことの意義を学ぶとともに、豊かなコミュニティを実現するための住宅のつくり方等についても考える。 | 手嶋尚人 | 講義 | 筆記試験 | 可能であれば、事前に台東区谷中地域を見てくる。 持ち物は特になし |
| | 4限 | 14:50～16:20 | 家族と共生社会 | 現代日本は少子高齢化から人口減少社会となっており、社会統計等から家族や生活の変化の現状を客観的に捉え、今後の予想とこれからの生活課題を見いだす。また、現代は多様な生き方が認められつつあるが、誰もが孤立せずに安定した生活を営むには、どのような家庭や地域、共生社会をつくらなければよいか、諸外国の例をとりあげながら、家族と共生社会を考える。 | 平野順子 | 講義 | 筆記試験 | 特になし |

※受講人数の関係で、2クラスで講習を行います。内容は同じです。クラス分けは7月上旬にホームページへお知らせいたします。

※認定方法は「筆記試験」「実技考査」「口頭試験」「その他(試験方法を明記)」のように履修認定は試験により行う。

※試験は本人確認ができる形態で行う。

***講習内容が変更になる場合もあります。ご了承ください。**